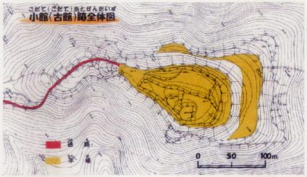
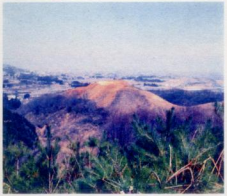


Ⅱ-9-④



Ⅱ-9-⑤-g

小船跡全景
Ⅱ-9-⑤-g

たかだてじょうあと

高舘城跡

所在地：名取市高舘吉田字西真坂

高舘山の中腹から山頂付近にかけて仙台平野を一望に見渡せる高舘城跡がある。

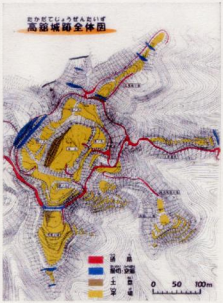
この城跡は、安元元年(1175)藤原秀衡が館を築き、文治5年(1185)奥州合戦の折りは藤原勢が同城にたてこもり鎌倉勢を迎え撃ったと言われる。

その後、永禄年間(1558～1570)伊達輝宗が一時居城し、後に家臣の福田駿河守を城主としておいたという。

また、観応の擾乱(1351)で多賀城をめぐる攻防のなかにでてくる「羽黒城」・「名取要害」は高舘城のことだともいわれる。

市内に現存する中世の城館跡の一つで典型的な山城である。

Ⅱ-10-①



Ⅱ-10-②

桑島長者物語

～桑島館にまつわるお話～

Ⅱ-11

高舘川上地区の旧東街道の道路をはさんで、東側に雄幸の供養碑、西側に幾代の供養碑と伝えられる所があります。

供養碑には、梵字と永和二丙辰年(1376)三月十五日と刻まれていたと伝えられるが、現在は風化のため判読はできません。また、この碑の傍らに、大正13年地元の人々によって「烈女幾子(幾代)」と「烈士雄幸」の碑が立てられています。

この雄幸・幾代については、地元に次のような悲しい恋の物語が伝わっています。

『昔、桑島館と呼ばれるところに住む長者には、たいへん美しい幾代という娘がいました。ある夜、その幾代を奪い取ろうとして山賊が襲ってきましたが、都からやってきた小佐治に助けられました。幾代と小佐治は相思相愛で、長者も娘養子にしたいと懇願したけれど蝦夷松前への旅の途中であったことからその願いを断られました。その後、幾代に鎌倉管領足利諸氏から求婚の申し出がありましたが、小佐治のことが忘れられずに思いあまって川に身を投げました。その後、小佐治は松前からの帰途にこのことを知ってあの世で結ばれようと思い、後を追って腹を切り亡くなりました。』

Ⅱ-11